

第2学年6組 音楽科学習指導案

- 1 単元名 「構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう」
教材名 Let's Create!

2 指導観

○ 私たちが日頃何気なく使っている言葉からも、工夫次第では発する言葉を音楽に変化することができる。創作の活動では、イメージをもつことが大切である。子どもたちは、小学校での音楽づくりにおける学習で、つくった音楽を記譜した経験がほとんどなく、中学校1年生で、初めてリコーダーのための二部形式の曲を創作して、それを記譜する学習をしている。しかし、16小節の音楽をつくるということだけで精一杯のため、表現したいイメージをもったり、全体のまとまりを工夫したりしながら音楽をつくることまでに至っていない。

以上のことから本題材では、イメージするものを日常生活の中で身近に経験していることの中から、「サラダの盛りつけ方や食べ方」を思い描きながら音楽をつくっていく。そこで、表現したいイメージ、反復、変化、対照などの音楽を構成する原理とかかわらせ、リズムアンサンブルのよさやおもしろさを感じ取らせるとともに、全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる能力を高めていくうえで、大変意義深い。また、グループで互いに聴き合いながら演奏する活動は、合唱や合奏など全てのアンサンブルにおいて求められる力である。このことから、本題材の学習を通して、拍感を捉える力、互いの音を聴き合う力も高まるようにしたい。

○ 本学級で事前アンケートを行った結果、「合唱は好きですか」の質問に対して、3.1(4段階自己評価尺度法による学級平均値)、器楽では3.2、鑑賞では3.1、創作では2.2となり、音楽の活動の中でも本単元に対して興味・関心が低く、苦手意識が強いことがわかる。「創作の活動は得意ですか」という質問に対して、得意と答えた生徒は全体の19%だった。苦手な理由としては、解答が多かった順に「リズムがわからない・思い浮かばない」「拍子の意味がわからない」「音符の書き方がわからない」「全てが難しい」などが挙げられた。しかし、「今よりも創作ができるようになりたいですか」の質問に対しては3.0(4段階自己評価尺度法による学級平均値)になった。以上のことから、創作の活動に対して苦手意識を持っているが、できるようになりたいという意欲を持っている生徒が多いことがわかる。

○ 本単元の指導においては、表現したいイメージをもち、野菜の名前からととなる2小節のリズムをつくり、それらを組み合わせたり反復、変化、対照させたりしながら構成や全体のまとまりを工夫して、リズムをつくり、グループで1つのリズムアンサンブルをつくることをねらいとする。そのためにまず、第一次では昨年学習したリコーダーのための創作を復習し、全体のまとまりを工夫して二部形式の曲をつくるようにする。次に、第二次では言葉からリズムのもとをつくり、そのリズムを繰り返したりつなぎ合わせたりして、4分の4拍子で2小節のリズムをつくるようにする。その際、「サラダを盛りつける音楽」と「サラダを食べる音楽」をつくるために、誰がどんな場所で食べるサラダなのか、グループでテーマを決め、音を重ねたり減らしたりしてリズムの重ね方を工夫しながら、グループで1つの音楽をつくるようにする。さらに速度や強弱の変化などの表現したいイメージを話し合い、表現を工夫することができるようにする。次に、グループで創作した音楽の中間発表をし、相互評価をする活動を行う。その際、学びの足跡を残すために、振り返りシートを活用し、毎時間振り返り(小さな振り返り活動)を行う。第三次では、中間発表での相互評価でアドバイスをもらったことを元に、グループの音楽を更に工夫し直し、最終発表をしあう活動を設定する。終末段階では、単元全体を通して、自己の学びの変容を認識できるように、文章分析シートを用いて学習全体を振り返る場を設定する(大きな振り返り活動)。

3 目標

- 反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに関心をもち、それらを生かした音楽表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとする。【音楽への関心・意欲・態度】
- リズム、リズムの重なり方、構成を知覚し、表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら、音楽をつくることことができる。【音楽表現の創意工夫】
- 反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な課題に沿った音の組み合わせ方、記譜の仕方などの技能を身につけて音楽をつくることことができる。【音楽表現の技能】

4 単元計画(5時間) 関心・意欲・態度【関】 音楽表現の創意工夫【創】 音楽表現の技能【技】 鑑賞の能力【鑑】

次	時	学習活動・内容	指導のねらい・内容・方法	評価規準(観点：方法)
一	1 ②	<p>1 単元を貫く課題を確認する。</p> <p>音楽をつくるためのコツを考えよう。</p> <p>2 リコーダー曲の創作をする。</p> <p>(1)創作の手順を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二部形式 ・記譜の仕方 <p>(2)全体の構成を工夫しながら創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長調 短調 ・リズム譜 ・音程 ・二部形式16小節 	<p>表現したいイメージをもち、工夫しながら音楽をつくるために何が必要なのか、課題を設定することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作について学習課題を設定することができるように、既有知識を用いて課題を考える活動を設定する。 ・昨年学習した創作の手順を思い出すことができるように、学習プリントを使って復習する場を設定する。 ・リズムパターンを参考にできるように、全体でリズム打ちの練習をする場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現を工夫しながら音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。(関：学習シート) ・二部形式でリコーダーのための音楽をつくることことができる。(関：様相観察・技：創作プリント)
二	1 ①	<p>3 言葉によるリズムアンサンブルをつくる。</p> <p>【小さな振り返り】</p> <p>(1)リズムのもとをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムのものと例 ・反復、変化、対照 ・2小節のリズム ・グループ内で発表 <p>(2)「サラダを盛りつける音楽」と「サラダを食べる音楽」をグループでつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの設定 ・リズムの重ね方、減らし方 ・記譜 <p>(3)表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速度 ・強弱 	<p>反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら、言葉によるリズムアンサンブルをつくることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムアンサンブルのイメージを膨らませることができるように、ヴォイスアンサンブル「野菜の気持ち」を鑑賞する場を設定する。 ・言葉のもつリズムを生かすことができるようにするために、リズムのもとをつくる活動を設定する。 ・音楽のイメージをグループで共有することができるようにするために、サラダを食べている情景を話し合う活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反復、変化、対照などの構成を考えながら、リズムのもとをつくることことができる。(技：学習プリント)
三 本時2/2	1 ②	<p>4 単元を貫く課題解決をはかる。</p> <p>(1)中間発表をし、相互評価をする。</p> <p>(2)グループの音楽を更に工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループからのアドバイスをもとに再度練習する ・最終発表 <p>(3)創作の学習を振り返り、結論づける。</p> <p>①つくりたい曲のイメージを最初に決めるとつくりやすくなる。</p> <p>②変化、反復、対照させるだけで、曲が変化する。</p> <p>③音の重ね方や減らし方を工夫するだけで、曲の雰囲気が変わる。</p> <p>④強弱や速度を変化させると情景を想像しやすくなる。</p> <p>⑤言葉をリズムに置き換えると、創作がしやすくなる。</p> <p>(4)単元学習を通して、自己の学習状況の変容を記述する。</p> <p>【大きな振り返り】</p>	<p>自分たちでつくったリズムアンサンブルを発表し、音楽をつくるために何が必要なのかを音楽用語を用いて説明することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージを創造しやすくするために、中間発表の最初に情景や工夫点を説明する場を設定する。 ・聴く側もリズムを目で見ながら聴くことができるようにするために、発表の際にリズム譜を黒板に貼って、見ながら聴く活動を設定する。 ・最終発表に向けて、改善点やアドバイスをわかりやすくするために、中間発表では、相互評価をする活動を設定する。 ・最終発表で中間発表からの変更点がわかりやすくするために、工夫した点や変更点を伝える場を設定する。 ・単元学習の内容を確認するために、文章分析シートを用いて大きな振り返りを行う場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現したいイメージをもち、構成やまとまりを工夫しながら、表現することことができる。(関：様相観察 創：学習プリント) ・創作をするために必要なかを音楽用語を用いて説明することができる。(創：学習シート)

6 本時の主眼

○音楽をつくるために何が必要なのかを音楽用語を用いて説明することができる。

7 振り返り活動を仕組む授業づくりの工夫点

これまでの「小さな振り返り活動」で獲得してきた知識・技能や自分の考えをもとに、グループによる交流活動および全体交流を通して単元を貫く課題に対する最終的な結論を、音楽用語を用いて説明することができる。終末段階では、単元学習を通して、自己の学習状況の変容を認識するための文章記述による「大きな振り返り活動」を行う。

8 準備 学習プリント・拡大楽譜・リズムカード・振り返りシート

9 本時の過程 関心・意欲・態度【関】 音楽表現の創意工夫【創】 音楽表現の技能【技】 鑑賞の能力【鑑】

段階	学習活動・内容	具体的な手立て（支援）	評価の観点（方法）	形態	配時
つかむ	1 発声練習をする。 2 前時の学習内容を想起し、本時の学習の見通しを立てる。 (1)本時の流れを確認する。 (2)本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">グループでつくった音楽を発表し、音楽をつくるためのコツを説明しよう。</div>	○学習の雰囲気をつくるために、発声練習を行う場を設定する。 ○本時の学習の見通しを確認することができるように、学習の流れを確認する場を設定する。		一斉	5
さぐる・深める	3 最終発表をする。 (1)グループ練習をする。 ・中間発表での他のグループからのアドバイスを知る。 ・練習をする。 (2)最終発表をする。 ・工夫点や変更点を伝える	○最終発表に向けて、更に表現の工夫をすることができるようにするために、前時の中間発表で、他のグループからもらったアドバイスを知り、グループ練習をする活動を設定する。	○表現したいイメージをもち、構成やまとまりを工夫しながら、表現することができる。 (関：様相観察 創：学習プリント)	小集団 ↓ 一斉	25
まとめる・振り返る	4 本時のまとめを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">①つくりたい曲のイメージを最初に決めると、つくりやすくなる。 ②最初のリズムを変化、反復、対照させるだけで曲が変化する。 ③音の重ね方や減らし方を工夫するだけで、曲の雰囲気が変わる。 ④強弱や速度を変化させると、情景を想像しやすくなる。 ⑤言葉をリズムに置き換えると、創作しやすくなる。</div>	○楽譜を見ながら聴くことができるようにするために、発表の際に黒板に拡大楽譜を貼る場を設定する。 ○本時のまとめを行う際に、音楽用語をもちいることができるようにするために、板書した音楽用語を参考にして、学習プリントに記述する場を設定する。	○音楽をつくるために何が必要なのかを音楽用語を用いて説明することができる。 (創：学習シート)	個 ↓ 一斉	10
	5 大きな振り返りを行う。 ・単元の学習を終えての文章を記述する。	○単元全体を通して、何がわかったのか、何ができるようになったのか自己の学習状況の変容を認識できるように、文章分析シートを用いて大きな振り返りを行う場を設定する。			10